

表現運動系領域部会 第1回 実証授業

1 研究主題を受けた部会の考え方

表現運動は達成型の運動領域とは異なり、ゴールフリーの学習と言われている。子供たちが身に付けるとよい動きを教師は価値付けながらも、子供一人一人がそれぞれ異なったゴールイメージに向かって毎時間の授業に取り組む。教師がその一つ一つのゴールイメージの実現に向けて、手立てを講じていく。

2 表現運動系領域における学習課題の捉え方

① 表現運動系領域の特性

自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ったり、互いの良さを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことができる。

表現系ダンス 表したいイメージを即興的に自由に動きながら表現することが楽しい。

リズム系ダンス リズムの特徴を捉えてリズムに乗りながら即興的に自由に全身で踊ることが楽しい。

フォークダンス 伝承されてきた踊りを踊って交流することが楽しい。

② 領域の特性を踏まえた学習課題の捉え方

- ・自分の思いや願いから設定した学習課題について

子供たちが教師と一緒に表現運動に取り組み、一人一人が楽しさを味わうことで、「表現運動って楽しいな」という思いをもち、自分たちで「やってみたい」と見いだした課題。

- ・自分の今もっている力から設定した学習課題について

教師と一緒に表現運動に取り組みながら、よい動きに自ら気付いたり、教師の価値付けによって理解したりする。その中で自分の動きや踊りを「もっと工夫したい」と見いだした課題。

- ・目標達成に向けての取組から設定した学習課題について

動きや踊りを工夫しているつもりでも、その工夫が自分たちの動きや踊りに合っているのか、やりたい工夫ができているのかなど、自分たちの動きや踊りを客観的に捉える必要がある。動画を撮影して自分たちの表したいイメージの動きになっているかどうか確認したり、他のグループに見てもらって表したいイメージが伝わるかどうか助言してもらったりすることを生かして、自らの動きや踊りを「自らの動きや踊りのよさを知りたい」「よりよくしたい」と見いだした課題。

3 第1回実証授業で明らかにしたいこと

1学期の実証授業では、表現運動の学習の積み重ねが乏しい学級・学年において、一人一人の子供が「学習課題を見いだす力」を高め、それぞれに応じた学習課題を設定し、教師が子供一人一人の学習課題に個別に対応できるようにする。そのために、子供がどのように表現運動と出会い、教師がどのように指導の個別化を図ることによって、子供たちの学習が個性化されるかを明らかにする。

4 学習指導案

(1) 実証授業実施校等

江戸川区立下小岩第二小学校

第5学年1組 児童：30名 指導者：主任教諭 阿部 千春

(2) 単元名

表現運動 表現「対決！」

(3) 単元の目標

知識及び技能	表現の行い方を理解するとともに、表したい感じを表現することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や発表の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	表現に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
知識・技能	運動の行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりしている。	①表現運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②対立・対応した動きに変化を付けたり繰り返したりして、メリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 ③表したい感じやイメージを強調するように、「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単な構成を工夫して、仲間と感じを込めて踊ることができる。
思考・判断・表現	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①表したい感じやイメージが表れているか、踊りの特徴を捉えて踊れているかなど、グループの仲間や他のグループの踊りを見て、自己やグループの課題を見付けている。 ②「表したい感じやイメージを強調する」という課題に応じて、差のある動きや群の動きなどで変化を付ける方法を選んでいる。 ③表したい感じやイメージにふさわしい動きになっているかをペアやグループ、クラス全体で見合い、よくなったところを伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	運動に積極的に取り組もうとし、互いのよさを認め合い助け合って踊ろうとしていたり、場の安全に気を配ったりしている。	①表したい感じやイメージを表現したりする運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きや考えのよさを認め合おうとしている。 ③グループで取り組む際に、仲間と助け合おうとしている。

(5) 児童の実態

①「学習課題を見いだす力」の実態について

5月に実施した陸上運動「短距離走・リレー」の学習では、自分やチームが「できるようにしたいこと」や「よりよくしたいこと」から学習課題を設定し、それに合った解決の方法（練習方法）を資料をもとに選び、課題解決に取り組むことを経験している。その中で、8割程度の児童が、自分の設定した学習課題の解決に向けて、進んで活動に取り組むことができている。しかし、残りの2割程度の児童の中には、自分で学習課題を見いだせなかったり、進んで取り組めてはいるものの、自己の能力に適した練習方法を選べなかったりする姿も見られる。

目標達成に向けた取組から学習課題を設定する力や、自己の課題を解決するために練習方法を選んだり、工夫したりすることに課題があると考ええる。

②学習経験、運動経験に関する実態について

本学級の児童は、低学年の表現リズム遊びや、中学年の表現（具体的な生活からの題材、空想の世界からの題材）・リズムダンスの経験が乏しく、第5学年ではじめて「表現運動」という運動に出会う。そのため、運動との出会いで「楽しい。」「やってみたい。」と思えるような手立てが必要であると考ええる。

(6) 研究主題に迫るための工夫

① 一人一人の子供が学習課題を見いだす手立ての工夫（都小体研の研究の視点）

ア 運動との出会い

一人一人の子供が表現を「楽しい。」「やってみたい。」という思いをもてるようにするために、以下の手立てを工夫した。

・心と体をほぐす

第1時の心と体をほぐす時間を長く丁寧に行えるように設定した。子供は音楽のリズムに乗って楽しんだり、いろいろな人とペアになったりして楽しむ。教師は大きく体を使ったり、笑顔で楽しんだり、男女関係なくペアになったりしている子供を価値付けていく。

・教師のリードで踊る

第1時では教師と一緒に同じ動きをしたり、教師の動きに対応した動きをしたり、教師の言葉がけで体を動かしたりして、表したいイメージで即興的に踊る楽しさを味わえるようにした。仲間と異なる動きをしていたり、思い切りオーバーに踊ったりしている子供を教師が価値付けることで、子供がもっといろいろな動きで踊ってみたいという思いをもてるようにする。

イ 選べる学習カード

表現の楽しさを味わった子供が、自分に合った学習課題を見いだせるようにするために、学習カードを選べるようにした。

・『表現を楽しみたい』のカード

「まだ恥ずかしいから、恥ずかしがらずに踊りたい。」「動き方が分からなくて自信がもてない。」などの子供が選ぶ。

・『動きを工夫したい』のカード

「もっとオーバーに激しく踊りたい。」「工夫を取り入れて表したい部分を強調したい。」などの子供が選ぶ。

- ・『自分たちのよさを知りたい』のカード

「よりよくできるところを見付けたい。」などの子供が選ぶ。

ウ 子供一人一人に応じた学習過程

同じ活動をしていても、子供が見いだした学習課題は異なる。そこでそれぞれに応じた課題解決ができるような学習過程を作成した。「まだ恥ずかしい。動きが分からない。」という子供は習得したい段階と捉え、教師や友達のまねをして踊る。「よい動きが分かってきた。もっと工夫して踊りたい。」という子供は活用したい段階と捉え、みんなで確認したよい動きや工夫を取り入れて踊る。「自らの動きや踊りのよさを知りたい。」「よりよくしたい。」という子供は探究したい段階と捉え、自己の動きを分析し、改善しながら踊る。子供一人一人がそれぞれの課題を解決するための活動を選べるようにすることで、学習の個性化を促す。

② 各領域部会における学習指導の工夫（上記①以外の各領域部会の工夫）

ア 個別最適な学びを促すガイド

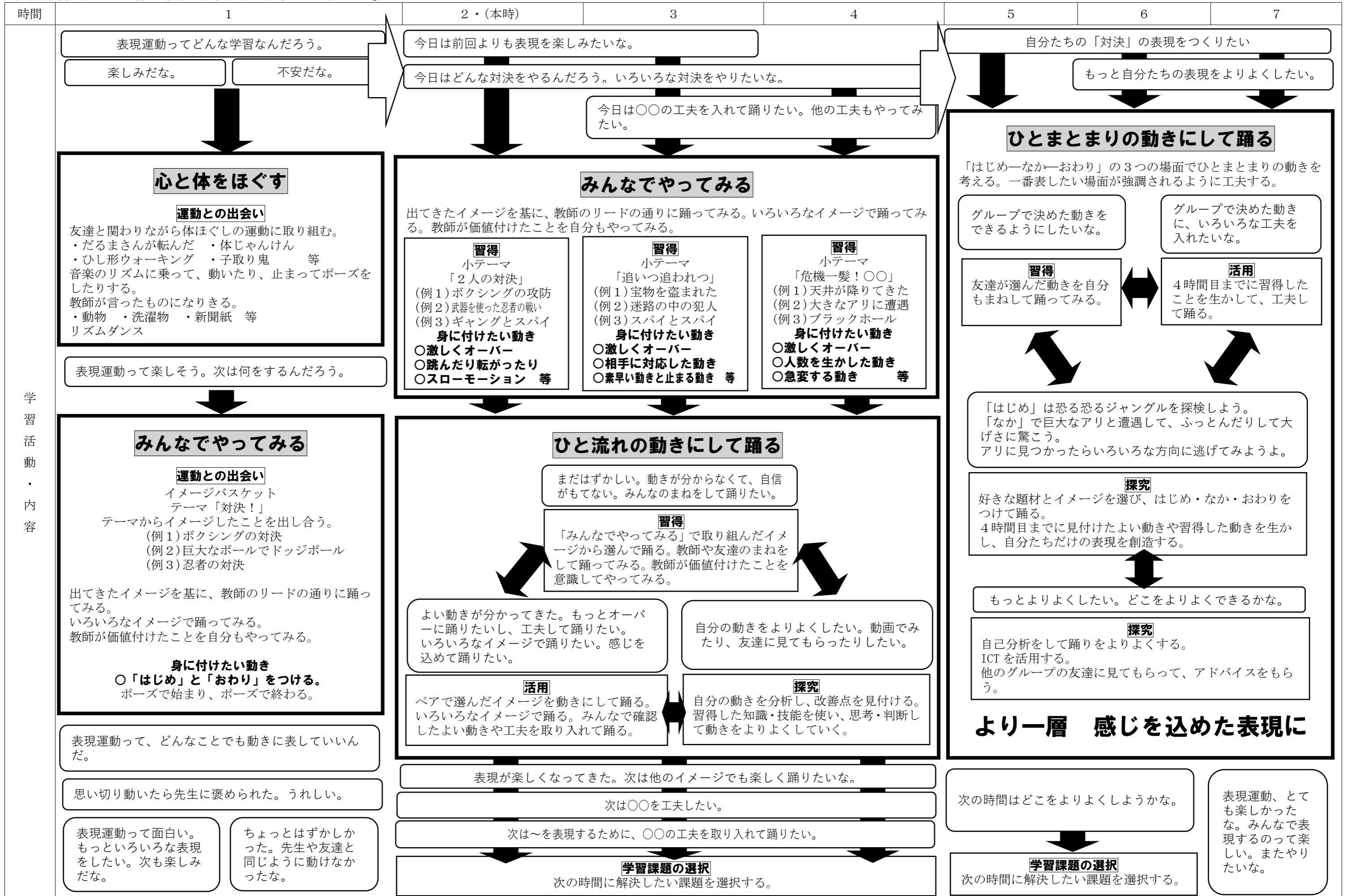
子供一人一人の見いだした学習課題の解決に向けて、ひと流れの動きで踊る際に、教師がそれぞれの子供に最適な発問や支援、称賛ができるようにするため、個別最適な学びガイドを作成した。

イ 工夫を引き出しやすい題材

表現は自由に動きを工夫して楽しむ学習で進められる。多様な工夫を味わわせることで、一人一人の課題の解決に向けた創意工夫ができるようにすることが大切である。そこで今回は表現の学習において、味わわせたい工夫（動き、リズム、空間、関わり）を引き出しやすい題材である「対決」を選択した。

ウ イメージバスケット

ひと流れの動きやひとまとまりの動きで、子供が自らの表したいイメージをもって即興的に踊るために、イメージを選択できるようにした。題材から一人一人の子供がもったイメージを全体で共有するイメージバスケットの活動を経て、「やってみたい。」という思いを引き出す。



学習活動・内容

(8) 本時の学習

① 本時のねらい

対立・対応した動きに変化を付けたり繰り返したりして、メリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。【知識・技能】

②本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮児童への支援	□評価
<p>1 心と体をほぐす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動をする。 ・リズムに合わせて教師のまねをしながら踊る。 	<p>◎恥ずかしさや苦手意識をもっている児童には、「先生のまねをしてみてね」と言って一緒に踊ることで、表現運動の楽しさを味わわせる。</p> <p>○「すばやく、スローモーション、ストップ、ねじり」など、変化や起伏のある動きを意図的に経験させられるようにリードする。</p>	
<p>2 学習活動の確認をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習活動を全体で確認する。 		
<p>3 イメージバスケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2人の戦い」からイメージしたことを出し合う。 	<p>○子供のイメージを肯定的に受け止め、どんなイメージでも出してよいという雰囲気をつくる。</p>	
<p>4 小テーマ「2人の戦い」を、みんなでやってみる (例1) ボクシングの攻防 (例2) 武器を使った忍者の戦い 出てきたイメージを基に、教師のリードで踊る。いろいろなイメージで踊る。</p>	<p>○教師の動きをまねしたり、言ったことを動きにしてみたりするように伝える。</p> <p>○リードしながら、動きの工夫やリズムの工夫を取り入れて踊るようにする。子供がまねして工夫を取り入れたら、全体の場で称賛し、価値付ける。</p> <p>◎恥ずかしさや苦手意識をもっている児童には、近くに行って、教師の動きをまねするよう伝えて支援する。動きに少しでも変容が見られたら称賛する。</p> <p>○最初と最後はポーズで決めることで「ひと流れの動き」を意識させる。</p>	
<p>5 2人組でリーダーを交代しながら、いろいろな「2人の戦い」を変化のあるひと流れの動きで踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで確認したよい動きや工夫を取り入れて踊る。 	<p>○全体を観察し、一人一人の学びの段階に応じて指導や支援をする。</p> <p>◎支援を要するペアには、教師リードで一緒に踊ったり、具体的な動きを言葉かけしたりする。動きに少しでも変容が見られたら称賛する。</p>	<p>□対立・対応した動きに変化を付けたり繰り返したりして、メリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。（観察）</p>
<p>6 クーリングダウンをする</p>	<p>○本時の学習を振り返りながら、心と体を落ち着かせられるようにする。</p>	
<p>7 学習の振り返りをする</p>	<p>○意識したことやできるようになったこと、次の時間にできるようになりたいことやよりよくしたいことについて振り返るよう伝え、本時の学習の成果や課題に気付けるようにする。</p>	
<p>8 学習課題を選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習課題に合った次時の学習カード選ぶ。 	<p>○次の時間にできるようになりたいことやよりよくしたいことから、学習カードを選ぶことを伝える。</p> <p>◎自分の学習課題を見いだせない子供には、Aの学習カードを進める。</p>	

対決！①

組 名前 (_____)

- 踊ってみて、楽しかったことを書きましょう。
(こんなポーズができた、こんな風に踊った、
○○さんが上手だった、など)

- これからどんな風に踊っていきたいですか。
(～の対決を踊りたいです、
体を大きく使いたいです、など)



対決②

組 名前 (_____)

○今日はどんなことを考えて踊りましたか。

下の から選んで○をつけましょう。いくつ選んでもいいです。

ねじる

すばやく

高く 低く

表情

本物以上に

ストップ

起き上がる

しせん

オーバーに

超スロー

相手に応じて

指先

その他→



できるようになったこと、もっとがんばりたいこと、その他。

.....

.....

.....

A

感想を書きたい

楽しかったこと



難しかったこと

うれしかったこと

気付いたこと

今日の感想

名前

--

B

表現を楽しみたい

	表現運動に積極的に取り組む
	友達の動きや考えのよさを認める
	ペアやグループの仲間と助け合う



どうやって？

振り返り（どうだった？次の課題は？）

名前

C

動きをよりよくしたい

	はげしくオーバーに
	メリハリをつけて
	速さに変化をつけて（ストップ、スロー等）
	上下左右に空間を広く使って
	ペアやグループを生かして

どうやってよりよくする？

振り返り（よりよくする工夫を入れたらどう変わった？）

例1) ~をしたら、~みたいになった。
例2) ○○さんの~な動きを真似してみたら、~みたいになった。
例3) ~ができた。前よりも~になった。次は~をしてみたい。

名前

D

自分や自分たちのよさを知りたい

	はげしくオーバーに踊れているか
	表したい感じやイメージを強調 できているか

どうやって調べる？

振り返り（どうだった？次の課題は？）

名前